

第 17 回名古屋市交通問題調査会（書面開催） に対するご意見

名古屋交通計画 2030 に関する、4 つの展開の進捗管理（令和 5 年度末時点）と、成果目標の見直し（数値目標の見直し）について、委員から以下のご意見をいただきました。いただいたご意見は、関係部署に申し伝えとともに、今後の施策を実施していく上での参考とさせていただきます。

■回答状況（名古屋市交通問題調査会委員 24 名）

意見あり	4 名
意見なし	20 名

■意見内容

<A 委員>

- ・「公共交通を便利で利用しやすいと思う人の割合」を維持・上昇させるためには、可動式ホーム柵（ホームドア）の整備が重要である。

<B 委員>

- ・今後、名駅周辺の再整備が行われる中で、高齢者や障害者、子育て中の方、外国人を考慮した計画の実現を願う。
- ・各交通機関への移動はできる限り短く、通路は幅広く、階段のほかエスカレーター、エレベーターの設置を願う。
- ・現在の名駅は、掲示板（サイン）が重要視されるため、音声案内を含めた検討を願う。
- ・無人運転のバス、タクシー等については高齢者、障害者等が安心して利用できるような設計を願う。
- ・障害者は障害の特性、種別により公共交通機関の利用には障壁があるので、計画段階から完成、開設後の意見聴取は必ず行ってほしい。

<C 委員>

- ・名古屋駅と高速道路とのアクセス性向上については、名古屋駅周辺の渋滞や駐車場不足などの問題が生じる可能性がある。

<D 委員>

- ・「愛知県で年に数回 MaaS 推進会議を実施中」とあるが、具体的にどのような議論がなされているかを記載すべき。
- ・「データに基づく交通の利便性向上」の取組について、記載いただきたい。